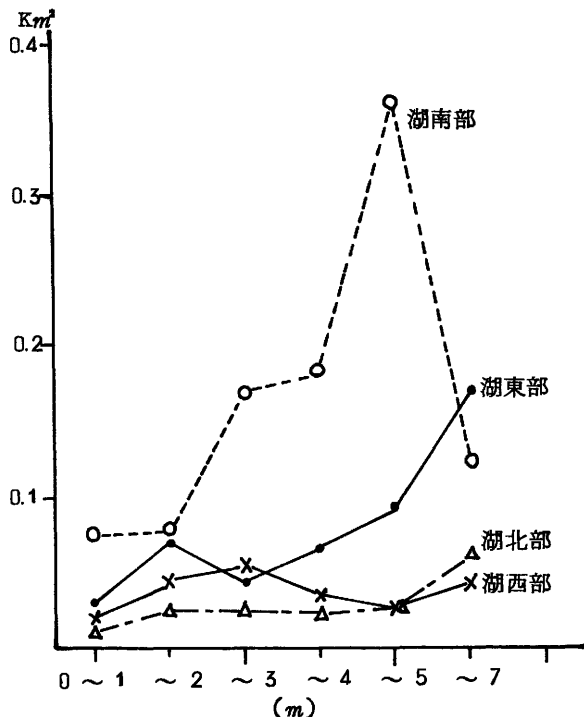




第2図 湖岸1 Km当り深度別湖底面積

調査方法概要

現場調査及び試料の採取には調査船2隻（基地船：びわこ丸 12.8 ton、作業船：動力付ボート）を使用し、主にアクアリング潜水によった。

調査結果

I 底 質

1. 調査方法

試料の採取は、停止した作業船上より、任意にエクマン採泥器を投下し、落下点を移動させることなく潜水者が採集した。

試料の分析は、乾燥後、標準土壌分析用篩で分別し、径6 mm以上をR、～4 mmをG、～0.5 mmをS、0.5 mm以下をMとし、潜水者の水中観察状況をも参考にし、R、

RS、G、GS、GM、S、SM、Mの8階級に分類した。

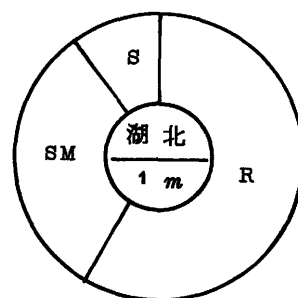
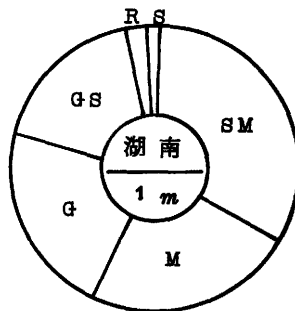
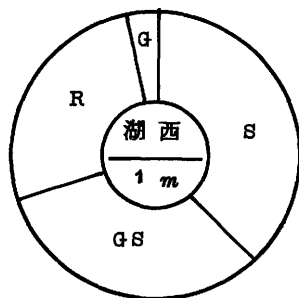
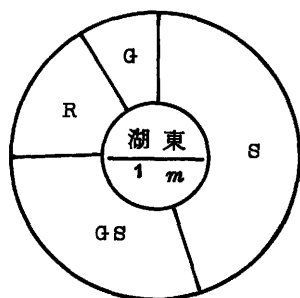
2. 調査結果

地点別水深別面積表（附表1）と、上記分析結果から、底質別面積を算出すると、第3表のとおりとなる。なお、底質別面積の算定基礎資料は一括して、附表2および3に示す。

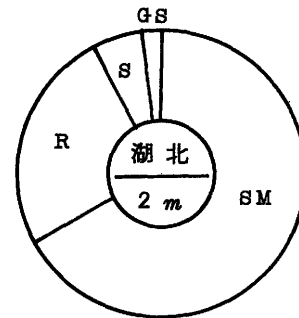
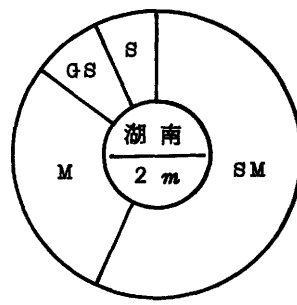
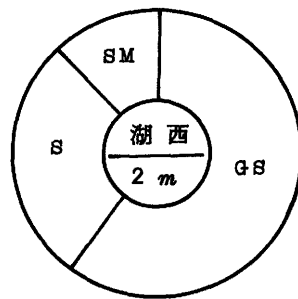
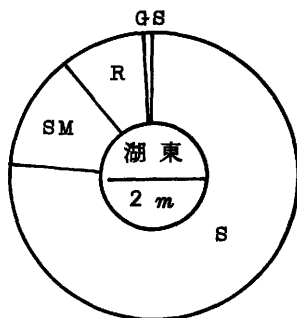
第3表から、地域別、水深別に底質面積を算出し、各深度別にその占める割合を比較図示すると第3図の1、2、3、4、5、6、7となる。

第3表 底質面積表 (m²)

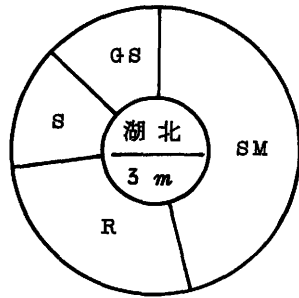
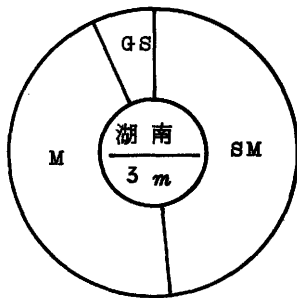
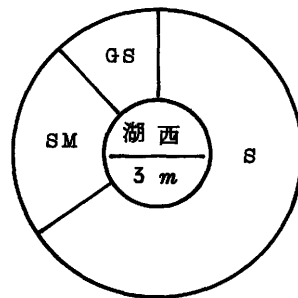
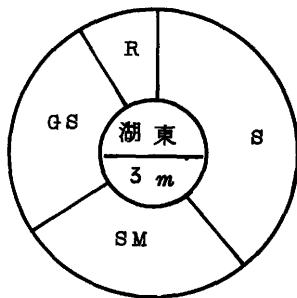
地域	深度 底質	1		2		3		4		5		7		合 計	
		面積計	%	面積計	%	面積計	%	面積計	%	面積計	%	面積計	%	面積計	%
湖東部	R	424,000	16.5	592,900	9.9	349,000	9.3	-	-	-	-	-	-	1,365,900	3.5
	RS	-	-	-	-	-	-	754,800	13.6	-	-	-	-	754,800	2.0
	G	213,600	8.3	-	-	-	-	-	-	-	-	927,500	7.2	1,141,100	3.0
	GS	767,600	29.8	15,100	0.3	963,600	25.5	638,300	11.5	1,468,200	18.7	-	-	3,852,800	9.9
	GM	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	S	1,170,300	45.4	4,591,200	76.6	1,469,000	39.0	2,061,000	37.2	1,740,200	22.2	2,998,600	23.2	14,030,300	36.3
	SM	-	-	793,500	13.2	989,100	26.2	2,086,000	37.7	4,634,100	59.1	4,325,300	33.4	12,828,000	33.2
	M	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4,690,900	36.2	4,690,900	12.1
湖西部	R	255,800	26.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	255,800	2.4
	RS	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	G	30,000	3.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30,000	0.3
	GS	309,500	32.4	1,303,500	60.2	321,300	12.2	384,000	23.2	1,604,400	13.1	339,700	16.1	2,818,400	26.2
	GM	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	S	358,400	37.6	588,800	27.2	1,712,000	64.9	1,020,600	61.6	686,500	56.3	1,125,700	53.2	5,492,000	51.1
	SM	-	-	272,400	12.6	605,200	22.9	252,300	15.2	373,000	30.6	650,800	30.7	2,153,700	20.0
	M	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
湖南部	R	86,700	2.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	86,700	0.2
	RS	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	G	906,000	22.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	906,000	2.0
	GS	695,000	17.1	340,200	8.0	664,800	7.1	427,800	4.3	-	-	-	-	2,127,800	4.9
	GM	-	-	-	-	-	-	1,852,400	18.5	-	-	-	-	1,852,400	4.2
	S	58,400	1.5	291,300	6.8	-	-	-	-	-	-	-	-	349,700	0.8
	SM	1,343,500	33.1	2,424,500	56.8	4,534,900	48.0	3,761,000	37.6	2,837,000	19.8	-	-	14,900,900	34.0
	M	968,100	23.9	1,214,900	28.4	4,240,700	44.9	3,961,900	39.6	11,525,800	80.2	1,756,100	100.0	23,667,500	53.9
湖北部	R	372,400	58.3	360,800	24.9	372,700	27.2	296,300	25.9	284,300	19.9	152,200	5.0	1,838,700	20.3
	RS	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	G	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	GS	-	-	32,100	2.2	172,200	12.6	213,300	18.6	32,100	2.3	1,660,300	54.6	2,110,000	23.3
	GM	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	S	65,900	10.3	84,100	5.8	195,800	14.3	-	-	200,800	14.0	847,200	27.9	1,393,800	15.3
	SM	200,100	31.4	972,100	67.1	628,400	45.9	91,000	7.9	109,600	7.7	201,000	6.6	2,202,200	24.3
	M	-	-	-	-	-	-	546,000	47.6	802,700	56.1	179,800	5.9	1,528,500	16.8



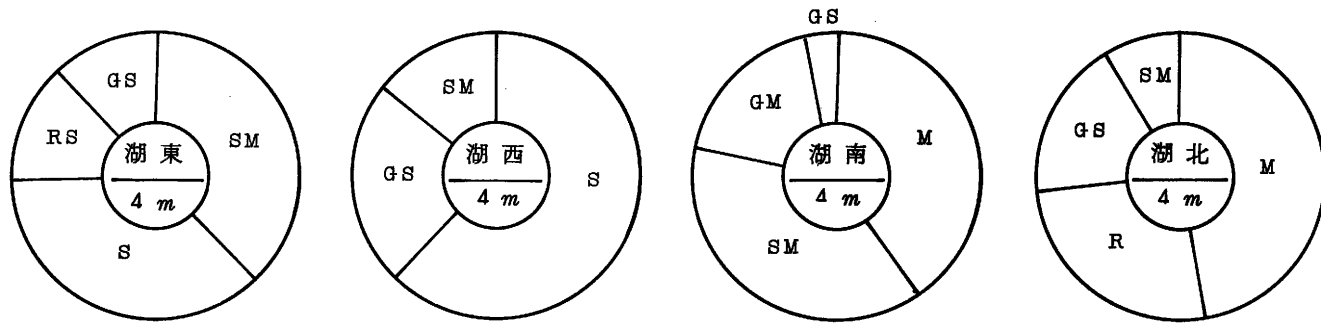
第3図の1 地域別、底質分布の比較 (1 m 深度)



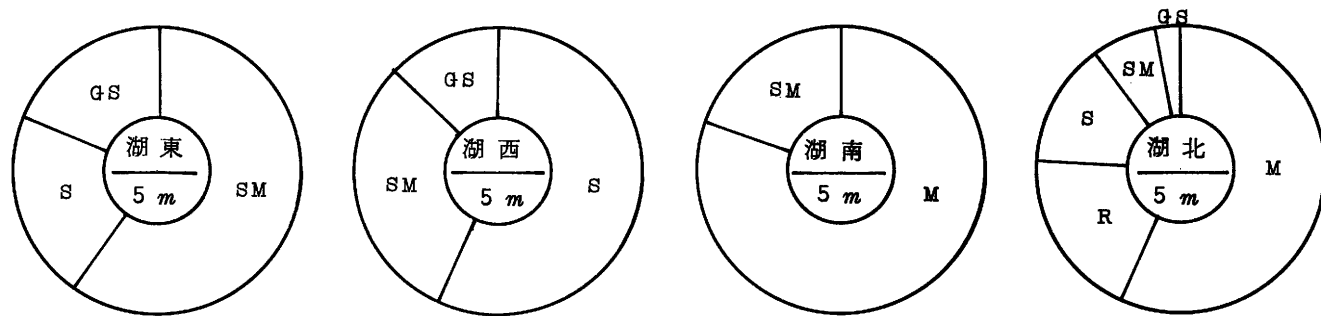
第3図の2 地域別、底質分布の比較 (2 m 深度)



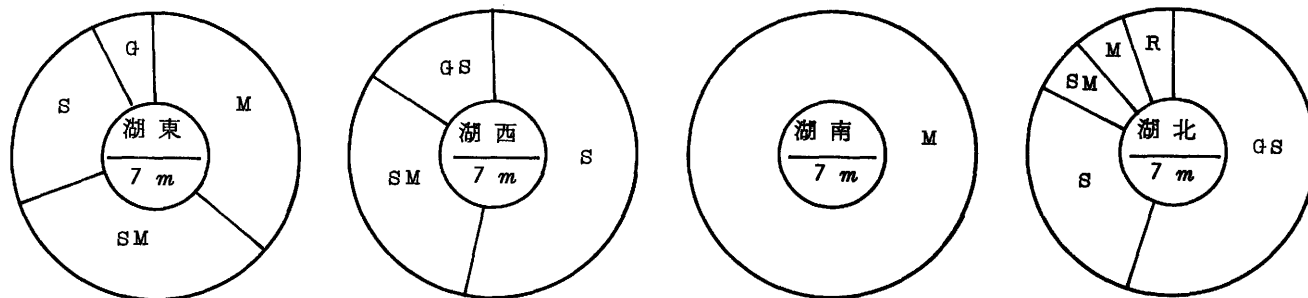
第3図の3 地域別、底質分布の比較 (3 m 深度)



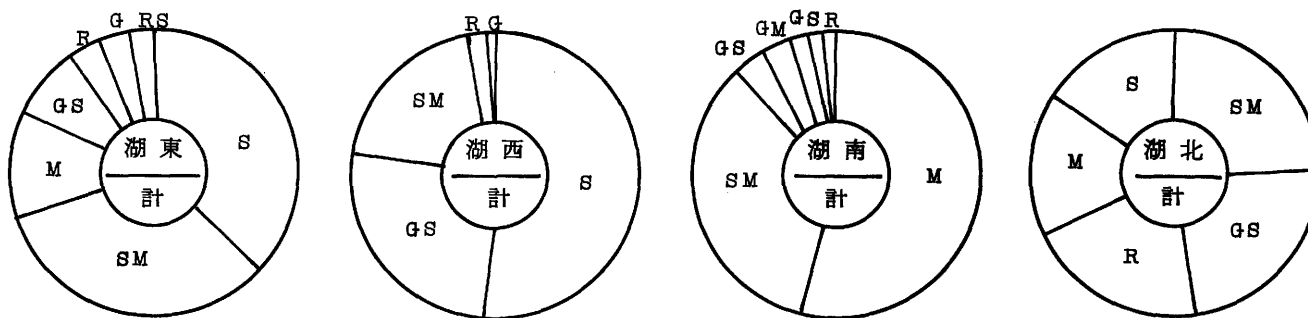
第3図の4 地域別、底質分布の比較 (4 m 深度)



第3図の5 地域別、底質分布の比較 (5 m 深度)



第3図の6 地域別、底質分布の比較（7 m 深度）



第3図の7 地域別、底質分布の比較（地域の平均）

以上の結果からみて、湖東地域は、水深1～3mはS質底が多く、水深4～5mではSM質底のところが多い。更に6m以深になるとM質底となるが、一部の地点ではRまたはGS質底が出現している。

湖西地域は、湖東地域にくらべ、S質底の占める割合が大きい。

湖南地域は、浅所ではSMまたはM質底であるが、深所になるに従ってM質底の占める割合が大となり、7m以深では全くM質底となる。

湖北地域は、かなり深所まで、Rの占める比率が大きいのが特徴であるが、またS、SM、GS等の地域もあり、他地域にくらべ、各種の底質が平均的に出現している。

II 水生植物

1. 調査方法

採取方法は、作業船上から25cm平方及び50cm平方の2種類の鉄枠を任意に投入し、密生地帯では25cm平方、疎生地帯では50cm平方の枠内で採集した。試料は種類別に分類し湿潤重量と乾燥重量を計った。

2. 調査結果

本調査による水草類の繁茂状況を模式化して一括図示すれば第4図のとおりである。なおよし地帯は、本調査とは別に補足調査した結果を記入した。

(1) 種類

本調査で採集されたものは次の12種類であった。

クロモ、コカナダモ、ビワセキショウモ、イバラモ、フサモ、マツモ、センニンモ、
シャジクモ、エビモ、ササバモ、フラスコモ、セキショウモ。

さきに滋賀県は、昭和28年度における調査^(註1)で、びわ湖および内湖に生ずる水草類28種を採集し、また、生島^(註2)は、内湖を含まないびわ湖外湖域で21種を採集し、この内、一般的なもの、10種にとゞまると発表している。

本調査で特記すべきことは、コカナダモの群落が広域にわたり優占的に出現したことであろう。本種について生島^(註3)は、1960～1961年頃びわ湖に侵入したと論じている。

註1 滋賀県水産試験場：琵琶湖水位低下対策（水産生物）調査報告書 1954

註2 生島功：びわ湖生物資源調査団水草班報告、びわ湖の水生高等植物 1966

註3

(2) 分布ならびに生育状況

1 分布

イ 湖東地域 野洲川南流と北流の水深1m附近に、密生したビワセキショウモの群落

以上の結果からみて、湖東地域は、水深1～3 mはS質底が多く、水深4～5 mではSM質底のところが多い。更に6 m以深になるとM質底となるが、一部の地点ではRまたはGS質底が出現している。

湖西地域は、湖東地域にくらべ、S質底の占める割合が大きい。

湖南地域は、浅所ではSMまたはM質底であるが、深所になるに従ってM質底の占める割合が大となり、7 m以深では全くM質底となる。

湖北地域は、かなり深所まで、Rの占める比率が大きいのが特徴であるが、またS、SM、GS等の地域もあり、他地域にくらべ、各種の底質が平均的に出現している。